<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>タイトル</td>
<td>「リア王」の展開  キーツの場合</td>
</tr>
<tr>
<td>著者</td>
<td>菊池亘</td>
</tr>
<tr>
<td>雑誌</td>
<td>一橋論叢 72(5): 469-485</td>
</tr>
<tr>
<td>発行日</td>
<td>1974-11-01</td>
</tr>
<tr>
<td>タイプ</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/1852">http://doi.org/10.15057/1852</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
（1）「リア王」の展開——キーツの場合

芸術作品は風呂に落とされた花が自然に咲くようにに定着していった。キーツの美意識は新しい花を咲かせ、その花粉からは簡単に想像できぬような変容を伴う場合が多い。

変容の因って来る方向を逆に遡ってそれがどの辺に行き着くかということを分析してみると方法を前払べきキーツの美意識について応用したことがあった。その行進をもって変容を伴う理由はその時の論考にゆずるようにとある。

しかし今度の場合は先の場合と違って、いかに到着点に達することもできる。すなわち結論というものを先に出し得るのである。結論を先に出して置いて論考の出発点から結論を為す到着点までの間の空間を埋めてみるということによってこの論考は成立するのであろうと考える。それとまでできても、今度の对象とするものは彼の人生観とをとることである。先の論考における対象はキーツの美意識ということであったが、今度の対象とするものは彼の人生観ということである。それ故して彼において人生観といえるものが出来上
一橋論譜 第七十二巻 第五号 （2）

しては人によってその答えは異なるであろう。二十五歳四か月の短い生涯という表層的な理由から否定的な方向を取ることのみを否定すること、浅薄の非難を免れるけれどもいかんかかもしれないということはいうまでもない。しかしキーツの場合はどう扱うのが正当なのであろうか。慎重を要する問題といわれなければならない、表面的な理由はともかくとして私は否定的な方向へと傾く。その根拠はいづれ第に触れながら私の表現を述べて行くつもりである。

では、一応人生観という完成度のかなり強い意識を含む表現をこだわり的に考えると、キーツの場合、人生に対するその態度は、だんだんのものであるたいという表現にこだわりを避けて、余り表現としては、私に私を取ろうとするのである。このことをまず第一に出し、次に、キーツにおいて、人生への意識あるいは精神的な態度というののか、何かを機縁にして、またのようにして培われたのであるかという問題に入る前に、われわれはここに一つの前提を置かなければならぬ。われわれはここにあるかという表現が弱過ぎて置きることになるならば、これを確定して置かなければならない。このような小さな表現に意外に大切なことが潜んでいるからである。この前提を立し得かどうかということである。シュイツシアの「リア王」をどのように解釈しようかを問うかということである。シュイツシアの「リア王」をどう解釈しようかということになるからである。この前提がうまく選ばれるかどうかによって、この論考をまた成

その位置を最も高いであろう。従ってその作品に対する
（3）「リア王」の展開——キューズの場合

研究の文献はその数においておびただしいものであるが、その数だけのわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究は、にくいか読んでもり、そこに系を私なりに創意を表したくなるような解釈であり、私は方針付けといったものに至らない。

しかし次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感させるのが、その数だけあるわけである。それに次第に進歩してきた最近の諸研究を解釈を前々たとき、文字通りに大半の部分を実感せる
二橋論叢 第七十二巻 第五号 (4)

ここで述べた「リア王」の解釈は、その解釈は外見によらないものがあるということを意味する。この解釈は、しばしば解釈されているように、他の解釈と異なったものである。他方、他の解釈はこのことに対しては異なったものである。したがって、「リア王」の解釈は、前変の解釈ではない。

私の目的に隠れたところでは、レアの多批評家である。そのため、このことを考えることは重要である。この解釈は、レアの解釈である。前変の解釈は、レアの解釈である。レアの解釈は、レアの解釈である。

このことがチェック、ケン・ジェンツ（The Arden Shakespeare's Abridgement）にある。この解釈は、レアの解釈である。前変の解釈は、レアの解釈である。レアの解釈は、レアの解釈である。
（5）「リア王」の展開——キーツの場合

老人に対してどのような深淵を持つかということを自己の物差しにおいて測ろうとしたときに問題が生じてくる。
三人の娘はこのとき決して自己を裏切らなかった。裏切ったと思われる専門家の説明は老人のほうであった。つまり、悲劇の要素は少し含まられている。老人はあるのは悲劇に起きてくることに恐ろしさがある。普通の人間であるということは自然の極めて平凡な一部に化さそうとすることを意味する。そのでこれが衰える。リア王のMystery of Peruの端緒を

述べれば端緒が真の直指に悲劇へつながって行く。すなわち普通化した人間が依然としてまだ自分は支配方を思い込んでいる。それらがそのまま他人ごとではなく観客ひとりひとりの

痛切な問題（今やかな老人問題として考えてみる

というのあのもののであるのに、なぜそれを舞台に掛けようとするのであろうか。話は少し脇を離れる

であるが、哲学者のヒーネムは悲劇的雄弁というと

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに／崩れなければならな

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きいものであるかということを徹底的に認める」として終わるのである。

人間はここから去って行くことに崩れなければなら

いのです。インデガー（Indgar）はいう。

「リア王」の内容についてはさらにもう少し詳しく

してみた。リア王の著しくとそれに堪えることがいかに大きなものであるかということを徹底的に認める」として終わるのであ
の詩的技巧は作品の内容と見事に一致し、そしてリア王の解釈を一つずつ進め、人間の心を動かすことが多かった。なお、シエイアヒアの詩的というか審美的というか、そのような計算ができるのである。このようにシエイアヒアはひらめきの乱を一層盛り上げることである。これに基づくエピソードは非常に冷たい目から見ると、先の暗い老人の行動を見つめていたことであろう。その後、この老人を置いて追い払うことを美しいと決めたところではある。伺ったこの編を唯弁なしか平凡なひとりの人間が、生れ変わったパジャマがする下の計算の仕方である。

「リア王」はただいいこのようにして組み立てられてるのであるが、これからこの論考の前提となるはずの作品の内容に移行してゆけばならない。ここに一つの見解がある。生考査を求めるために悲劇的な時々、その主な体験としての生、あるいは生の破壊としての生を単一化させる、このをキーワードまで延ばして行くような態度（？）は、彼の筆の上から見ても異なった力が含まれている。これは内容と形式の上から見てでも危険性を含むといえるべきである。第一キ

「リア王」はこんなことを考えたことがあるであろう。キ

たツの作品と書簡を集める中には明らかである。後に

ある。あるいは「リア王」をクリスチャンの信仰を持た

ないキリスト教の倫理の悲劇であるというような解

釈もあるが、これについても私は考慮していない。この解釈に応じてはいかない。というのはこの解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。というか、逆にそれを実験主義的な解釈に応じてはいかない。いう
（7）「リア王」の展開——キーツの場合

（7）「リア王」の展開——キーツの場合

「リア王」における詩的悲哀を正しものにし、そして高めているのは、詩的率直な発言であろう。詩の現実と幻想をつなく媒介は、やかましくって、これを二段のものである。（原本文）

「リア王」における詩的悲哀を正しものにし、そして高めているのは、詩的率直な発言であろう。詩の現実と幻想をつなく媒介は、やかましくって、これを二段のものである。（原本文）
人生に対する意識あるいは態度というもののなかに暗い影をキツツにおいて投じ始めているのはいつかということになる。それは単に決定してはいるが、心理の深層においては彼が九歳の時に出会った父の事故死が、おそらく最初の影として横たわることであろう。それかもしこの二十七三歳の時に末弟を失って行くことになるが、それは最初の影に重なって行う。いいで、その影を淡くして行ったであろうということについて異論を生ぜしめないであろう。この線に沿って作品を考えてみるということも一つの重要なテーマとなってくるが、これは僕の問題であって目下のところはこの四つの具体例に限定しながらキツツの人間意識というものを考え、行うことに、むしろ意識的にこれが見えてしまうとするようとする。

この作品について二つの作品と二通の手紙を取扱うとし、それらの問題を合せて二通などというわけではなく、この二通に見られる人間意識も、作品と同様に後の方へとその線が延ばされていると見られるからである。しかしこの二つの作品の場合と手紙の場合では、その延長の仕方において多少の差がある。ということは、いずれこの論考の結論においてかかわることになれるが先に一応ここで断って置く。

まず作品の方から入って行く。二つの作品というのは、「わびしい夜の十二月」（On dreary night December）と「もう一度「アド」を読むために坐る（On Sitting Down to Read “King Lear”, Once Again）である。前者は三つのスタタンザから成る二十四行の詩である。
この短い詩にとってはいろいろなことをいって置かなければならない。この詩の何らかの手法上の意味や否定的な力（Negative Capability）、芸術上の「強烈さ」（Litterature）等々であるが、ここでは一切これを「素通し」（Symbol）という「詩的ロマンス」（Poetic Romance）を書き終わった一八七一十一月二十八日からおぞらく数日後に書かれたものであることがあることにまず初めに注意すべきものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がっていると考えて、この作品のところに来るものである。自然と人間の生活が一致して出来上がり
Shoot up those golden pages and be mine.

Leave meditations on this windy day.

Fair Plumed Syren, Queen of the Wreath.

A Golden-Ringed Romance, with some hint of...
Give me new Phoenix wings to fly at my desire.  
But when I am consumed in the fire, 
Let me not wander in a barren dream, 
When through the old oak forest I am gone. 
Begetters of our deep eternal theme.
キーチの人生観を示しているのは、次の言葉である。「わわれわれの身が、われわれの手が、われわれの口から言えることを、われわれの身体を用いて、われわれの心を用いて、われわれの思考を用いて、われわれの行動を用いて、われわれの人生を書く」。このような表現は、キーチの人生観を探求しているものの、次の一通の手紙を使用するよう、彼の対人生の意識はこれを軸として展開している。
（13）「リア王」の展開——キーツの場合

(1) すなわちここで彼は「感想している」とはいっていいが、理解していることが重要だとある。人生の例えを述べている。キーツにおける宗教の関係をはっきりと述べている。

(2) キーツは「神秘の重荷」を感じるのは私である。これはプロテスタント系批判に対して行ったものである。この箇所の意図を把握するためには、キーツの考え方を理解することが必要である。

(3) キーツの人生を象徴している状態を示し、その状態は固定化している。これに即して宗教批判というよりはむしろその否定が前提となっている。
ここで少しくキーツにける宗教ということに触れておきたい。
結論的といえばキーツは宗教といえども、それにしても彼の詩人たちが
その宗教的態度を取ること、死の病床にあったときの

第四章（Death Poems）の宗教書を例に取り上げ
てみてもそれは詩人の回心の証拠とするわけにはいかな
い。彼は生涯を通じて宗教に対して否定的であったし、
場面によっては攻撃的であった。キーツの宗教的態度は

この反面、彼は詩人としての独自の宗教的な態度を
持っている。キーツのヒューマニズムは、しばしば
に関する箇所である。‘魂’とは

本体（Soul）に関する箇所である。‘魂’とは

この魂を作るのに絶好の境遇を提供する。彼はこれこそ

‘本体’（Soul）を指す。苦しみに満ちたこの世は

とすることである。ことかいう

にいう。ところその説明によれば、それは知覚を作

という。さらに、心を

で、混雑した感情のないものであり、要するに神であ
（15）「リア王」の展開——キーツの場合

『リア王』の展開は、キーツの「魂」の育成を主体に進む。キーツに魂の存在を信じ、彼を導くのは、彼の迷いを解きほぐすために必要な存在である。「魂」は、キーツのキャラクターの中に深く根ざしているものである。キーツが魂を高め、魂の力を発揮するための手段が必要である。

キーツの魂を高めるためには、彼自身の成長が不可欠である。キーツは、自分が持っている力を引き出していくために、自分自身を鍛え、自分自身を知るようになる。キーツの魂を高めることによって、彼は自分の力を高めることができる。

キーツの魂を高めるために、彼は個々の挑戦に直面する。その挑戦は、キーツ自身の魂を鍛え、彼を魂を高めるために必要なものである。キーツの魂を高めるためには、彼は自分自身を知ることができる。

キーツの魂を高めるために、彼は自分自身を鍛え、自分自身を知ることができる。キーツの魂を高めるためには、彼は自分自身を知ることができる。